

(学校番号062)

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【片柳小学校】

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「言葉の特徴や使いに関する事項」「読むこと」 算数「数と計算」「変化と関係」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を充実させていく必要がある。	⇒ 「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な内容の反復・習熟に取り組む【自習時間・長期休み・授業中に実施】 PCを毎日持ち帰ることで、家庭学習においても「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等に取り組めるようにする【学年ごとに順次実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「書くこと」「読むこと」 算数「図形」「データの活用」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を充実させていく必要がある。	⇒ 積極的にICT機器を活用することで、児童の「わかった・できた・楽しい」を引き出す。【毎時間】

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「情報の扱い方に関する事項」の平均正答率において、全国平均を上回った。「言葉の特徴や使い方に関する事項」において「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」問題に課題が見られた。算数の「図形」の問題において「示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ」問題に課題が見られた。理科の「地球を柱とする領域」の問題において「氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる」問題において課題が見られた。
思考・判断・表現	国語の「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」問題と「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題に課題が見られた。算数の「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題で課題が見られた。理科の「水の温まり方について、問題に対するまとめを導きたす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる」問題に課題が見られた。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な内容の反復・習熟に取り組むことを自習時間や夏休みの課題として行うことができた。 学年によっても徐々にPCを毎日持ち帰ることは行えているが、「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等の家庭学習の取り組みについては自主的に行っている児童もいる反面全く取り組めない児童もいるなど課題が見られる。	変更なし
思考・判断・表現	B	各教科の授業において、教員も児童も積極的にICT機器を活用することで、「わかった・できた・楽しい」を引き出すことができた。	変更なし

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語は3年生の「当該学年の前の学年の漢字配当表に表されている漢字を文の中で正しく使うことができる」4年生の「文の中の主語と述語の関係を理解することができる」5年生の「相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができる」6年生の「文の中の修飾と被修飾の関係を理解することができる」問題に課題が見られた。算数は3年生の「立方体の構成について理解している」4年生の「減法と除法の混合した整数の計算をすることができる」5年生の「合同な図形をかくために必要な構成要素を理解している」6年生の「分数、小数、整数の混合した計算をすることができる」問題に課題が見られた。社会は5年生の「埼玉県内の人口が多い地域と、地形との関わりを考察することができる」6年生の「年表を手掛かりに、源氏物語絵巻が描かれた時代と、その時代の文化を選択することができる」問題に課題が見られた。理科は5年生の「水は水面から自然に蒸発し水蒸気になると、冷えると再び水になって現れることを理解している」6年生の「ろ過の適切な方法について理解している」問題に課題が見られた。
思考・判断・表現	国語は3年生の「相手や目的に応じて敬体と常体を意識的に使い分け、文末表現に注意しながら文章を整えることができる」4年生の「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて、文章を読むことができる」5年生の「目的や意図に応じ、語の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる」6年生の「目的や意図に応じ、語の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる」問題に課題が見られた。算数は3年生の「除法の場面を捉え、商と余りについて適切に判断することができる」4年生の「グラフを正しく読み取ることができる」5年生の「単位量当たりの大きさを活用して、こみ具合を比べることができる」6年生の「基準量・比較量・割合の関係を捉え、比較量を求めることができる」問題に課題が見られた。社会は5年生の「消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産しようとする工夫や努力を考察することができる」6年生の「年表等を手掛かりに、織田信長や豊臣秀吉が戦国の世を統一した過程を考察することができる」問題に課題が見られた。理科は5年生の「自然の事象・現象に働きかけて得た事実を豊臣秀吉の視点で分析して解釈し、問題を見出すことができる」6年生の「植物の葉に日光が当たるとどうなるかを調べる実験方法について構想している」問題に課題が見られた。

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	授業の中で個別最適で協動的な学習活動を取り入れた結果、分からない問題に対して児童が自分の最適な学習方法で取り組むようになり、正解にたどり着くことができるようになった。R7年度さいたま市学習状況調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができているか。」の肯定的な回答の割合は90.5%、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」の肯定的な回答の割合は96%であった。
思考・判断・表現	B	R7年度さいたま市学習状況調査の「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していますか。」の肯定的な回答の割合は65%と高くなかった。この結果から、知識・理解においてはタブレットを活用して学習の定着を図ることができたが、国語の文章の読み取りや算数の文章問題においては効果的にタブレットを活用することができなかったと考えられる。

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	国語では「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、算数では「数と計算」や「図形」において、社会では「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」や「歴史と人々の生活」において、理科では「生命を柱とする領域」において課題が見られた。この結果を受けて、次年度はドリルパーク等による反復学習や、個別最適で協動的な学習活動を取り入れたよりよい授業を行うための校内研修を行うことで学力を向上させていきたいと考える。
思考・判断・表現	国語では「話すこと・聞くこと」と「書くこと」において、算数では「変化と関係」や「データの活用」において、社会では「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」や「歴史と人々の生活」において、理科では「生命を柱とする領域」において課題が見られた。この結果を受けて、ルーブリックを意識させた授業の展開や生成AIを活用した教材作成などを行うことで学力を向上させていきたいと考える。

※評価
 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一步)